■「仲間外れ」の心理を探る



（(47)）

する側の気持ち分析

探究心旺盛な小中高生の皆さんに向けて、弘前大学の先生たちのユニークな研究を紹介するこの連載。

◇　◇

今回は「子どもの仲間関係における排他性に関する研究」についてです。

子どもの仲間関係における「排他性」とは、相手を仲間に入れず、排除しようとする気持ちのことです。保育や学校の場では、仲間集団から排除され、孤立してしまう子どもがいます。こうした問題が深刻化すると、仲間外れやいじめにつながることがあります。


松本恵美助教

弘前大の松本恵美先生はその背景を探るため、子どもの仲間関係における「相手を排除したい・受け入れたい気持ち」に影響を与える要因に関して調べ、その対応や支援について研究しています。

▽「仲間に入れてあげない子」に注目した研究

小学校中学年以降、友達グループが固定化すると、集団の基準に合わない子を排除したい気持ちが強まる傾向があります。従来の研究では「仲間外れにされる子」に着目した研究が多くありました。

その中で松本先生は周囲の人達へ焦点をあて、「仲間に入れてあげない子」の心理へと関心を移しました。その背景を、子どもの特性や経験だけでなく、クラスやグループなどの雰囲気からも探っています。

▽直接聞きづらい心理をどう解き明かす？―本音に迫る質問術・心の数値化

仲間に入れたくないという気持ちは、子ども自身が良くないことだと思ったり、言いにくいと感じたりするため、本音を引き出す難しさがあります。


（イラスト：教育学部4年　関川智乃）

そこで松本先生は、子どもが答えやすいように工夫したアンケートで、他者に対する気持ちを間接的に探っています。気持ちの程度を5段階で答えてもらい、目に見えない心理を数値化して分析。子どもたちやクラスの観察だけでなく、その背景にある「見えない心理」にアプローチしています。

松本先生によると、年齢やクラス、グループの特徴によって状況が異なり、必要な対応や支援も変わります。

「同じ状況でも、年齢によって感じ方、考え方が変わるところに研究の特色や魅力がある」とし、個人の要因と周囲の環境、両方の側面に着目して状況に合った方法を考えています。

▽最後に、松本先生からのメッセージ

子どもの行動やその背景にある気持ちは、多様な要因によって影響を受けています。「子どもの行動の裏にはどんな心理が隠れているのだろう」「子どもの発達は何に影響を受けているのだろう」「子どもにはどのような指導や支援が有効だろう」といった疑問を持っている人、幼児や児童の心理に興味のある人は、一緒にその疑問を解き明かしていきましょう。

子どもの心理は、実は複雑で興味深いです。

第47回の先生
松本　恵美助教
【教育学部／学校教育教員養成課程・グローバルWell-being総合研究所兼任教員】

◇　◇

ひろだい探偵団は、陸奥新報掲載と同時に弘前大のホームページにも掲載しています。過去に紹介した「なして？」（連載バックナンバー）は、左のQRコードから見ることができます。ぜひご覧ください。

次回は来年1月18日に掲載予定。お楽しみに！

（担当：弘前大学総務部秘書室・広報室、ライター：人文社会科学部3年　川崎龍稀）

当コーナーに届いた質問に回答します！

［質問］飼っているニワトリがキビ、アワ、ヒエなどの穀物を選んで好きな順に食べていました。①丸呑みしても味の違いを感じているのですか？②大きさやのど越しで好みが決まるのですか？③人間であれば飲み込むときに唾を使いますが、ニワトリもそうなのでしょうか？（ペンネーム：あやとさん）

［回答］ニワトリの舌には味を感じる味蕾がほとんどなく、口の上側や下側に多くあります。丸呑みしていても味を感じていますが、色、におい、大きさ、硬さ、食べやすさなども好みに関係します。のど越しを感じるかはまだ分かりませんが、私は感じていると予想しています。

ニワトリにも唾液腺があり、唾液を出します。唾液には食べ物を少し溶かして味を感じやすくしたり、湿らせて飲み込みやすくしたりする働きがあります。実は今、唾液にどんな成分が入っているか研究中なので、これから新しいことが分かってくると思います！

◇　◇

私が「なして？」にお答えしました。


弘前大学農学生命科学部　川端二功准教授

※この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。　令和８年１１月２日 陸奥新報掲載